

CONTENTS

- 追悼 永田 喬先生を偲んで__1
- 日本デザイン学会2023年度第5回理事会議事録__2
- 日本デザイン学会2023年度第3回運営委員会議事録__3
- 日本デザイン学会2024年度第1回運営委員会議事録__4
- 日本デザイン学会2024年度第1回理事会議事録__6
- 日本デザイン学会2024年度第2回理事会議事録__7
- 日本デザイン学会2024年度第3回理事会議事録__8
- 会長・副会長・理事 選挙報告__8
- 2024年度学会各賞 選考結果報告__9
- 第71回春季研究発表大会報告__10
- 第72回春季研究発表大会予告__12
- 委員会報告__12
- 支部活動報告・告知等__12
- 研究部会活動報告・告知等__15
- 訃報__16
- 献本御礼__16
- 会員の移動__16

追 悼



永田 喬先生を偲んで

元千葉大学工業意匠学科教授の永田喬先生が2024年7月28日に、86歳でご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに、先生の御業績と、先生がどのような思いで教鞭を取られていたかについて、私が知るところを書かせていただき、これを追悼文とさせていただきたいと思っております。

永田先生は千葉大学工業意匠学科の第6期生として卒業されました。その後、富士電機工業株式会社に入社され、家電製品

のデザインを担当された後、カリフォルニア大学で修士号を取得されました。そして恩師である吉岡先生の招聘を受け、母校である千葉大学に教員として復帰されました。2003年に退職されるまで、約40年にわたり教員として多大なご貢献をされました。最初の著書である『イメージ パースペクティブデザイン』（美術出版、1979年）は、意匠科の教科書として広く使用されており、懐かしく思われる方も多いのではないのでしょうか。英語がご堪能であり、台湾の国立成功大学をはじめとする複数の大学で客員教授を務められ、また退職の年にはオーストラリアのモナシュ大学のフェローにも就任されていました。

先生は私に「大学教員としての仕事は二つある」と教えてくださいました。正確な言葉は覚えていませんが、一つ目は「大学とは、企業ができない“バカなこと”（適切な表現ではないかもしれませんが）をやる場でもある」ということです。企業では、成果が発展に直結することが重視されますが、大学で結果のみを求めてしまうと、研究や学生指導が予定調和的になり、本来の研究の意義を失う可能性があります。ある修士学生に対して先生が「もし君がチャレンジして失敗しても、その過程を公開することにより、無限にある可能性の中から一つがうまくいかないことを示す意義がある」と仰っていたのが印象に残っています。先生は、プロトタイプを作りながら研究を進めるといふ正しい姿勢を示され、その過程における失敗を恐れず、可能性を追求することの大切さを教えてくださいました。

もう一つの仕事は、後進を育てることです。これは私も大学教員になって以来、常に意識しています。学生指導、研究実績の向上、外部との連携を同時に進める必要があります。特にデザイン領域では、非常に難しい課題となっています。永田先生は、まず、教え子を含めた社会で活躍するデザイナーを紹介くださり、共に学生指導にあたる機会を与えてくださいました。また、海外大学への研究派遣も何度か行かせていただきました。先生が築いてくださった環境があったからこそ、私は独り立ちすることができたのだと思っています。

本当にありがとうございました。どうか安らかにお休みください。

千葉工業大学副学長 長尾 徹



日本デザイン学会2023年度第5回理事会議事録

日時■2024年2月10日(土曜日)10:00~11:30

場所■Web会議

出席者■小林、佐藤(弘)、井口、赤井、井上、石川、柿山、川島、工藤、黄、佐々、佐々木、寺内、永盛、西尾、橋田、福田、松岡、村井、森、柳澤、山中、小野、蘆澤、加藤(健)、佐藤(浩)

欠席者■井関、大島、岡本、加藤(大)、小泉、水津、曾我部、永井、細谷、村上、益岡、森田、山本

1. 会長挨拶

小林会長より、挨拶がなされた。

2. 2023年度第4回理事会議事録の承認(佐藤本部副事務局長)
2023年度第4回理事会議事録案が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 2024年度春季研究発表大会について(井上担当理事)
井上担当理事より、基調講演、支払い方法の変更、インボイス対応、大会ページについて提案がなされた。具体的に、支払い方法はconfitシステム支払い(23日まで可)と当日支払い(割増)とすること、インボイス対応は現状のままとしてその旨をHPへ掲載、大会ページのENGLISHページは非表示で進めることとなった。

4. 2024年度春季研究発表大会オーガナイズドセッションについて(工藤企画委員長)
工藤企画委員長より、オーガナイズドセッション(OS)募集結果について説明がなされた。審議の結果、申請のあった6件を採択することとなった。

5. 2024年度春季研究発表大会テーマセッションについて(柿山研究推進委員長)
柿山研究推進委員長より、テーマセッション募集結果について説明がなされた。審議の結果、申請のあった5件を採択することとなった。

6. 会員の移動について(佐藤本部副事務局長)
事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、
入会：正会員7名
学生会員4名(内、外国人1名)

休会：正会員2名

退会：正会員6名
が承認された。

7. 能登半島地震による会費免除について(佐藤本部事務局長)
佐藤本部事務局長より、能登半島地震にて被災した会員(第三支部)の年会費免除の提案がなされ、承認された。

【報告事項】

8. 役員選挙について(石川選挙管理委員長)
石川選挙管理委員長より、理事会後に行われる役員選挙について説明がなされた。

9. デザイン関連学会シンポジウムについて(松岡担当理事)
松岡担当理事より、開催情報と原稿募集について説明がなされた。また、デザイン学会からのパネリストについて、希望者がいなかった場合の選出は会長と松岡担当理事に一任することとなった。

10. 第14回(2023年度)第1支部大会in札幌 終了報告(福田大年第1支部長)
福田大年第1支部長より、第1支部大会の開催報告がなされた。

11. デザイン学研究の進捗状況について(佐藤論審委員長)
佐藤論審委員長より、『デザイン学研究』における審査状況について報告がなされた。発行が遅れている70巻3号は2月中発行、4号は予定通り3月末発行を予定しているとの説明がなされた。

12. 英文ジャーナルの進捗状況について(柳澤担当理事)
柳澤担当理事より、『Journal of the Science of Design』における審査状況について報告がなされた。発行が遅れている7巻2号は2月中に発行予定であるとの説明がなされた。

13. 特集号の進捗状況について(蘆澤学会誌編集・出版委員長)
蘆澤学会誌編集・出版委員長より、今年度の2件の企画に加えて、次年度分の企画についても募集と選定を進めて、次期委員会に引き継ぎたい、との説明がなされた。

14. 会報記事募集について(森会報担当理事)
森会報担当理事より、会報232号記事の募集について説明がなされた。

15. 教育成果集2023の作品推薦の件（橋田支部企画委員長）
橋田支部企画委員長より、教育成果集2023掲載の作品募集
について説明がなされた。

記録：佐藤（浩）

日本デザイン学会2023年度第3回運営委員会議事録

日時■2024年3月9日（土曜日）15：00～17：00

場所■Web会議

出席者■小林、佐藤（弘）、井口、井関、井上、石川、
柿山、加藤（大）、川島、工藤、小泉、黄、
佐々、佐々木、寺内、永盛、橋田、福田、細谷、
松岡、森、柳澤、山中、山本、小野、蘆澤、
加藤（健）、佐藤（浩）

欠席者■赤井、大島、岡本、水津、曾我部、永井、西尾、
益岡、村井、村上、森田

1. 会長挨拶

小林会長より、挨拶がなされた。

2. 2023年度第5回理事会議事録の承認（佐藤本部副事務局長）

2023年度第5回理事会議事録案が示され、原案通り承認さ
れた。

【審議事項】

3. 2024年度春季研究発表大会について（井上担当理事、永 盛概要集編集委員長）

井上担当理事より、会場、協賛、大会サイトの準備状況につ
いて説明がなされた。参加費はオンラインと会場の2段階と
し、また、参加証は事前ダウンロードを可とすることとな
った。原稿締め切り期限については、例年通りの日程で進めるこ
ととなった。

4. 2024年度春季研究発表大会オーガナイズドセッションに ついて（工藤企画委員長）

工藤企画委員長より、各オーガナイザーから情報を集約し、
大会ホームページに掲載しているとの報告がなされた。また、
今後もパネリストなどの未定部分について逐次情報を更新して
いくとの説明がなされた。

5. 2024年度名誉会員の選考について（佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、10名の候補者の提示がなされた。関
係する理事から候補者へ資格の確認を実施することとなった。

6. 「投稿時の要件」「掲載料」について（柳澤論審委員長、佐 藤（浩）論審委員長）

柳澤論審委員長、佐藤（浩）論審委員長より、英文誌の投稿
数増加に向けた「投稿時の要件」と「掲載料」の変更に関する
提案がなされた。審議の結果、論文投稿の活性化に繋がる和文
誌との連携も含めた全体像を再考し、次回の理事会で提案する
こととなった。

7. 2024年度学会運営スケジュールについて（佐藤本部副事 務局長）

佐藤本部副事務局長より、2024年度学会運営スケジュール
案が示され、承認された。

8. 会長賞の募集について（佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、会長賞の募集について例年通り実施
するとの説明がなされた。また、学会活動の活性化に向けて理
事からの積極的な推薦のお願いが松岡理事からなされた。

9. 会員の移動について（佐藤本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：正会員7名

学生会員17名（内、外国人5名）

退会：正会員11名

学生会員2名

が承認された。

10. 地区理事の決定について（石川選挙管理委員長）

石川選挙管理委員長より、調整中である地区理事の決定方法
について説明がなされた。審議の結果、調整中の地区理事につ
いては、各地区の代議員の総意によって決定することとな
った。また、次期選挙における人選方法について検討していくこ
ととなった。

【報告事項】

11. 藝術学関連連合 第18回公開シンポジウムについて（井 口担当理事）

井口担当理事より、シンポジウムの概要とパネラーの児玉幸
子先生について説明がなされた。

12. デザイン学研究の進捗状況について（佐藤論審委員長）

佐藤論審委員長より、『デザイン学研究』における審査状況
について報告がなされた。発行が遅れている70巻3号は3月
上旬発行、4号は予定通り3月末発行を予定しているとの説明
がなされた。

13. 英文ジャーナルの進捗状況について（柳澤担当理事）

柳澤担当理事より、『Journal of the Science of Design』における審査状況について報告がなされた。また、7巻2号が発行されたとの説明がなされた。

14. 特集号の進捗状況について（蘆澤学会誌編集・出版委員長）

蘆澤学会誌編集・出版委員長より、プロモーションデザイン研究部会、2023年度秋季企画大会、農業デザイン部会の進捗状況について説明がなされた。

15. 作品集の進捗について（細谷作品審査委員長、（代）小林会長）

小林会長より、現在、11件の修正原稿に対する2次審査中であるとの説明がなされた。

記録：佐藤（浩）

日本デザイン学会2024年度第1回運営委員会議事録

日時■2024年4月13日（土曜日）15：00～17：00

場所■Web会議

出席者■小林、佐藤（弘）、井口、井上、石川、柿山、川島、小泉、黄、佐々、佐々木、寺内、永盛、福田、益岡、松岡、村井、村上、森、山中、小野、蘆澤、加藤（健）、佐藤（浩）

新理事■池田（美）、伊藤、岩田、植田、小早川、滝本、田村、富田、中島、伏見、前川、森山、横溝

欠席者■赤井、井関、大島、岡本、加藤（大）、工藤、水津、曾我部、永井、西尾、橋田、細谷、森田、柳澤、山本

1. 会長挨拶

小林会長より、挨拶がなされた。

2. 2023年度第3回運営委員会議事録の承認（佐藤本部副事務局長）

2023年度第3回運営委員会議事録案が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 2024年度春季研究発表大会について（井上担当理事、永盛概要集編集委員長）

井上担当理事より、発表登録・原稿投稿数（投稿完了数288件）、企業協賛展示申込状況、今後の課題について説明がな

れた。企業展示については、現状4件の申し込みがあり、引き続き、募集を継続することとなった。SMOOSYとConfitのシステム上の問題が示され、次年度以降の運用上の課題について報告がなされた。

なお、年度を跨る投稿者の身分移動については、変更の可能性がある会員のリストを事務局から開催校へ情報を提供し、実際に変更がある場合には追加徴収を行うこととなった。

4. 2024年度名誉会員の選考について（佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、6名（うち1名確認中）が名誉会員候補であるとの提案がなされ、資料に基づき以下の方々が名誉会員として承認された。

山中敏正氏、久保光徳氏、山崎和彦氏、青木幹太氏、伊原久裕氏、國本桂史氏（確認中）

5. 2024年度総会議案書について（佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、2024年度総会議案書について例年通りの日程で各委員会の新旧委員長にお願いすることとなった。

6. 「投稿時の要件」「掲載料」について（柳澤論審委員長、（代）佐藤（浩）論審委員長）

佐藤（浩）論審委員長より、英文誌の投稿数増加に向けて、筆頭著者が会員の場合には掲載料を無料化、筆頭著者が非会員の場合でも投稿可（掲載料は4万円）とする提案がなされ、承認された。また、本提案は2024年度総会後から適用し、4年に一度見直しを実施していくこととなった。なお、本提案に関してIASDRやIAC等のホームページにも展開を依頼し、会員・非会員へのわかりやすい告知を図っていくこととなった。

7. 会員の移動について（佐藤本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：正会員32名（内、外国人3名）

学生会員83名（内、外国人15名）

退会：正会員27名（内、外国人1名）

学生会員5名

が承認された。

8. 被災による年会費免除について（佐藤本部副事務局長）

佐藤本部副事務局長より、能登半島地震被災による年会費免除措置に1件の申請があったとの報告がなされ、承認された。

【報告事項】

9. 2024年度委員会担当について（佐藤本部事務局長）
佐藤本部事務局長より、次期委員会担当案が示され、確認がなされた。
10. 藝術学関連連合 第18回公開シンポジウムについて（井口担当理事）
井口担当理事より、シンポジウムの概要とパネラーの児玉幸子先生について説明がなされた。
11. デザイン学研究の進捗状況について（佐藤（浩）論審委員長）
佐藤論審委員長より、『デザイン学研究』における審査状況について報告がなされた。また、2023年度分の号はすべて発行されたとの説明がなされた。
12. 英文ジャーナルの進捗状況について（柳澤担当理事、（代）佐藤（浩）論審委員長）
佐藤論審委員長より、『Journal of the Science of Design』における審査状況について報告がなされた。
13. 特集号の進捗状況について（蘆澤学会誌編集・出版委員長）
蘆澤学会誌編集・出版委員長より、現状企画されているテーマについて報告がなされ、今年度中に発刊が遅れている分も含めて4号分を発行予定であるとの説明がなされた。
14. 作品集の進捗について（細谷作品審査委員長、（代）小泉委員）
小泉委員より、現在、2次審査が終了している段階との報告がなされた。また、小林会長が細谷作品審査委員長に詳細な進捗の確認をすることとなった。
15. 第3支部研究発表会実施について（黄第3支部長）
黄第3支部長より、3月23日（土）に研究発表会を完全対面方式で実施したとの報告がなされた。
16. 第4支部研究発表会実施について（益岡第4支部長）
益岡第4支部長より、3月4日（月）に研究発表会を完全対面方式で実施したとの報告がなされた。

記録：佐藤（浩）

住所変更はお済みですか？

住所不明で戻ってくる郵便物が
増えております。

住所変更は確実にお願いします。

届出は文書にてお願いします。

転居される方は、FAXまたは

綴じ込みの「入会届け」に

朱書きで「変更届け」と書き添えて、
事務局までご連絡ください。

ホームページ

http://jssd.jp/files/change_regular.pdf にも

様式が掲載されておりますので

ご利用ください。

退会等の届出も必ず文書にて

お願いします。

本部事務局

日本デザイン学会2024年度第1回理事会議事録

日時■2024年5月11日（土曜日）15：00～16：30

場所■Web会議

出席者■小林、佐藤（弘）、井口、赤井、井上、柿山、加藤（大）、川島、工藤、小泉、黄、佐々、佐々木、曾我部、永盛、橋田、細谷、益岡、松岡、森、山中、小野、蘆澤、加藤（健）、佐藤（浩）

新理事■伊藤、岩田、植田、小早川、坂川、滝本、田村、土井、富田、中島、前川、横溝

欠席者■石川、井関、大島、岡本、水津、寺内、永井、西尾、福田、村井、村上、森田、柳澤、山本

1. 会長挨拶

小林会長より、挨拶がなされた。

2. 2024年度第1回運営委員会議事録の承認（佐藤本部副事務局長）

2024年度第1回運営委員会議事録案が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 2024年度春季研究発表大会について（井上担当理事、永盛概要集編集委員長）

井上担当理事より、準備状況について説明がなされた。大会当日の会場マップ、企業展示申込状況（5件）、および発表者からの問い合わせ事項について報告がなされた。大会当日に向けて、引き続き、準備を進めていくこととなった。

4. 2024年度会長賞について（小林会長）

小林会長より、2名の申請がなされているとの説明がなされた。審議の結果、2名に会長賞を授与することとなった。

5. 2023年度会計監査について（小野副事務局長）

小野副事務局長より、2023年度決算と2024年度予算について報告がなされ、承認された。また、学会全体を活性化するための活動への投資を積極的に実施していく必要性について、2名の監事から指摘がなされた。

6. 総会の進行について（佐藤（浩）本部副事務局長）

佐藤（浩）本部副事務局長より、総会の式次第案が示された。審議の結果、説明担当者の一部修正がなされ、承認された。

7. 会員の移動について（佐藤本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：正会員6名

学生会員15名（内、外国人9名）

退会：正会員6名

学生会員4名

賛助会員1件

休会：正会員1名

が承認された。

8. 2024年度秋季企画大会について（佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、2024年度の秋季企画大会を千葉大学墨田キャンパスで開催する案が示され、承認された。

【報告事項】

9. 2024年度学会各賞選考委員会について（佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、学会各賞選考委員会を含めた次期委員会担当案が示され、確認がなされた。

10. 第71回春季研究発表大会 大会プログラム（仮組）に関して（柿山研究推進委員長）

柿山研究推進委員長より、口頭発表件数205件（2件リジェクト）、ポスター発表件数81件との報告がなされた。また、プログラム案が示され、今後はプログラム公開と座長依頼を実施していくとの説明がなされた。

11. デザイン学研究の進捗状況について（佐藤（浩）論審委員長）

佐藤論審委員長より、『デザイン学研究』における審査状況について報告がなされた。

12. 英文ジャーナルの進捗状況について（柳澤担当理事、（代）佐藤（浩）論審委員長）

佐藤論審委員長より、『Journal of the Science of Design』における審査状況について報告がなされた。また、8巻1号の準備状況について説明がなされた。

13. 特集号の進捗状況について（蘆澤学会誌編集・出版委員長）

蘆澤学会誌編集・出版委員長より、次期委員長との引継ぎが完了したとの報告がなされた。引き続き、決定している企画の進捗管理と企画募集を進めていくとの説明がなされた。

14. 作品集の進捗について（細谷作品審査委員長）

細谷作品審査委員長より、11件が採択され、6月下旬に2023年度分の発行を予定しているとの報告がなされた。

15. ホームページの更新状況について（小林会長）

小林会長より、ホームページの更新状況と会員の2件分の著書について説明がなされた。

16. 報告事項の内容について（山中監事）

山中監事より、各委員会からの報告事項は、現状の状況報告の他に各委員会で蓄積しているデータとそれらの分析から読み取れる事項についても合わせて報告いただきたいとの要望が示された。

17. 部会の活動について（井口副会長）

井口副会長より、ホームページにおいて非表示となっている部会の活動について状況を確認する必要性について言及がなされ、確認することとなった。

記録：佐藤（浩）

日本デザイン学会2024年度第2回理事会議事録

日時■2024年6月21日（金曜日）11：30～12：30

場所■九州産業大学15号館

出席者■小林、佐藤（弘）、井口、石川、井上、柿山、小泉、黄、佐々木、寺内、福田、細谷、益岡、松岡、山本、蘆澤、佐藤（浩）

新理事■池田（岳）、池田（美）、岩田、植田、上平、田村、横溝

欠席者■赤井、井関、大島、岡本、小野、加藤（健）、加藤（大）、川島、工藤、佐々、水津、曾我部、永井、永盛、西尾、橋田、村井、村上、森、森田、柳澤、山中

名誉会員■國澤、源田、青木、伊原

1. 会長挨拶

小林会長より、挨拶がなされた。

2. 名誉会員の紹介

ご出席の名誉会員より、挨拶と近況報告がなされた。

3. 2024年度第1回理事会議事録の承認（佐藤本部副事務局長）

2024年度第1回理事会議事録案が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

4. 2024年度春季研究発表大会について（井上担当理事、永盛概要集編集委員長）

井上担当理事より、準備状況や運営状況について説明がなされた。

5. 会員の移動について（佐藤本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：正会員14名（内、外国人1名）

学生会員20名（内、外国人6名）

賛助会員2件

退会：正会員2名

学生会員2名

休会：正会員1名（内、外国人1名）

が承認された。

6. 概要集からの氏名と所属の削除について（佐藤本部副事務局長）

佐藤本部副事務局長より、2000年発行の春季大会概要集の著者から自身の氏名と所属を削除してほしいとの要望について説明がなされた。審議の結果、共著者3名の同意が得られた上で当該著者の氏名と所属を黒塗りにして公開することとなった。

【報告事項】

7. デザイン学研究の進捗状況について（佐藤（浩）論審委員長）

佐藤論審委員長より、『デザイン学研究』における審査状況について報告がなされた。

8. 英文ジャーナルの進捗状況について（柳澤担当理事、（代）佐藤（浩）論審委員長）

佐藤論審委員長より、『Journal of the Science of Design』における審査状況について報告がなされた。また、8巻1号の準備状況について説明がなされた。

9. 作品集の進捗について（細谷作品審査委員長）

細谷作品審査委員長より、採択率について説明がなされ、2024年度分については年度内の発行を目指すとの報告がなされた。

10. 第1支部大会について（福田第1支部長）

福田第1支部長より、9月28日に支部大会を開催する予定との説明がなされた。

11. 第2支部教育成果集について（山本理事）

山本理事より、教育成果集が発行されたとの報告がなされた。

12. 2024年度秋季企画大会について（植田実行委員長）

植田実行委員長より、秋季企画大会の開催場所や日程案について説明がなされた。

記録：佐藤（浩）

日本デザイン学会2024年度第3回理事会議事録

日時■2024年6月21日（金曜日）16：30～17：30

場所■九州産業大学15号館

出席者■佐藤（弘）、井口、池田（岳）、池田（美）、石川、岩田、植田、柿山、上平、小泉、黄、小早川、小林、曾我部、滝本、田村、富田、中島、永盛、福田、伏見、前川、森山、横溝、柳澤、山中、蘆澤、加藤（健）、佐藤（浩）

欠席者■伊藤、坂川、小野、工藤、佐々、佐々木、水津、土井、橋田、吉武

1. 会長挨拶

佐藤会長より、挨拶がなされた。

2. 理事会選出副会長の選出について（石川選挙管理委員長）

石川選挙管理委員長より、理事会選出副会長選挙が実施され、小野理事が副会長となった。

【審議事項】

3. 理事の役割担当について（佐藤会長）

佐藤会長より、2024年度理事会構成員・組織について、別紙のとおり説明がなされ承認された。また、各支部、委員会の担当について説明がなされた。さらに、各支部、委員会にて幹事を選定し、事務局へ連絡していただくようお願いがなされた。

4. 2024年度学会運営スケジュールについて（佐藤本部副事務局長）

佐藤本部副事務局長より、2024年度学会運営スケジュールについて説明がなされた。

5. 2024年度秋季企画大会について（植田理事）

植田理事より、秋季企画大会の開催場所や日程案について説明がなされた。

6. 作品集の審査について（山中理事）

山中理事より、質の担保と委員会の負担減等を目的とした査読日程の管理やループリックの作成などの提案がなされた。

【報告事項】

7. 理事会・運営委員会の開催形式について（佐藤会長）

佐藤会長より、理事会・運営委員会の対面による開催を増やしていくとの説明がなされた。

8. 2025年度春季研究発表大会について（柿山理事）

柿山理事より、2025年度の春季研究発表大会を札幌市立大学で開催するとの説明がなされた。

9. 概要集からの氏名と所属の削除について（佐藤本部副事務局長）

佐藤本部副事務局長より、2000年発行の春季大会概要集の著者から自身の氏名と所属を削除してほしいとの要望について説明がなされ、共著者3名の同意が得られた上で当該著者の氏名と所属を黒塗りにして公開することとなった。

記録：佐藤（浩）

会長・副会長・理事 選挙報告

選挙管理委員長 石川義宗

2024年1月、2024・2025年度の会長候補者・副会長候補者・地区理事（支部長）候補者・全国区理事候補者・監事候補者の郵送による選挙を2月7日（水曜日）事務局必着で行った。その結果、全ての当選者が確定しなかった。そこで、2月10日の「代議員会（オンライン開催）」出席代議員55名程度（時間帯により参加者数が変動）により、第2回目以降投票をオンラインで行った。その後、就任承諾の確認、辞退者の申し出の受け付け、それともなう次点者の繰り上げを行った。繰り上げ当選については、同票の対象者がいる場合は若年者を優先した。

なお、今回の選挙では、繰り上げの場合、副支部長を1票もしくは0票の候補者たちから選ばなければならない地区があった。副支部長が各地区の取りまとめ役であるということの妥当性から、この場合、地区内での協議、総意によって副支部長を選出することになった。

本件については3月9日の「2023年度第3回運営委員会」にて選挙管理委員長から説明され、今後の選挙の方法について改めて検討することが伝えられた。

理事会選出副会長選挙報告

日本デザイン学会会則役員選挙規定第19条12項の定めると

ころにより、2024・2025年度理事会選出副会長選挙を郵送にて実施した（6月15日事務局必着）。その結果、1位が有効票23票の過半数に達しなかったため、春季大会中の理事会（6月21日16：30～）にて再投票が行われた。これにより、小野健太先生が当選し、本人の承諾も得られた。なお、同理事会において次期選挙管理委員長に中島瑞季先生が就任されることが決まった。

2024年度学会各賞 選考結果報告

各賞授賞選考委員長 松岡由幸

2024年度の学会各賞授賞選考結果を下記の通り報告する。

■授賞件数／推薦件数*

特別賞：1件／1件、優秀研究賞：3件／3件、研究奨励賞：1件／1件、フロンティア論文賞：2件／2件、論文賞：2件／5件、作品賞：0件／1件、功労賞：4件／4件

*推薦件数は、会員、論文審査委員会、作品審査委員会、本選考委員会より推薦された件数。

■授賞対象及び選考理由（敬称略）

<特別賞>

・『環境デザインを主とした永年の制作実績及び学会活動、また若手研究者、デザイナーの育成等の功績に対して』長谷高史
長谷高史氏は、長年の日本デザイン学会の活動はもとより、環境デザイン部会の活動・運営を牽引しており、環境デザインの発展・普及に大きく貢献した。特に、環境デザイン部会において、若手を指導し、育成してきた功績はその後のデザイン学会においても大きな影響をもたらした。それらの功績は、多くの論文、著書、受賞歴で示されているとともに、2023年に開催された自らのデザイン系譜に関する展覧会においても結実されている。このように、同氏のこれまでの実績は学術領域のみならず、デザイン界においても注目されるべきものであり、日本デザイン学会特別賞に値するものである。

<優秀研究賞>

・『木材を中心とした自然材料による家具等の開発研究』阿部真理
阿部真理氏は、木材を中心とした材料の感覚的性質および機械的・物理的性質を明らかにするとともにその応用を提案する研究を行ってきた。特にスギ材を改質したスギ圧縮木材と、スギ圧縮木材に2次加工を施した弾性スギ圧縮木材の各性質を明らかにし、家具への応用を図っている。これらの成果は論文13件に示されており、地震国である日本の家具開発への指針

を示すなど、社会的に意義を生み出していることから優秀研究賞に相応しい。

・『環境演出の体系化に基づくデザイン方法の提案と展開に関する研究』伊藤孝紀

伊藤孝紀氏は、都市や地域内において特定の環境を活かして実施されるインスタレーションやイベント、生活行為からまちづくり活動までを「環境演出」と捉え、これを環境デザインにおける総合的な指標として体系化し、デザインの方法論として確立することを目指した研究を実施してきた。その成果は、論文35件と作品集9件に結実しており、優秀研究賞に値するものである。

・『室内空間認知と家具開発に関する一連の研究』白石照美

白石照美氏は、木糸生地・タケ生地・和紙生地などの自然材料をひも状・シート状・ボード状などの形状別に分類し、感覚的性質および機械的・物理的性質を明らかにするとともに、その応用を提案する研究を行ってきた。これらの成果は、論文11件、作品集1件で示されており、日本の家具開発への指針を示すなど、社会的に意義ある成果をあげていることから優秀研究賞に相応しい。

<研究奨励賞>

・『歴史的造形物のデジタルデータ活用を主とした地域活性化デザイン』青木宏展

青木宏展氏は、地域にある歴史的な文化資源を発掘するとともに、デジタルデータとして記録し、それを地域活性化に結びつける研究を実施してきた。それらの成果は、論文12件（内、筆頭3件）、作品集1件により公表されている。青木氏の研究は、他の地域の文化資源へも応用でき、将来的な発展が期待されることから、「研究奨励賞」に相応しい。

<フロンティア論文賞>

・『KEYWORD GENERATION SYSTEM BASED ON DESIGN MODEL AND CO-OCCURRENCE WORD LEARNING』Takeo KATO, Mitsunori WADA, Yasuhide KISHITANI

本論文では、AIによる自然言語処理技術とデザイン理論である多空間デザインモデルを組み合わせ、デザインの発想を支援する新たなシステムを構築し、評価実験によりその妥当性を検証している。本論文は、AIによる自然言語処理技術とデザイン科学における理論・方法論を統合した先駆的な研究成果であり、デザイン学研究の新たな方向性を示していることから、フロンティア論文賞に値する。

・『サービス利用による精神価値向上のための経験価値変化モデルの提案』堀川将幸、黄輔立、佐藤浩一郎、寺内文雄

本論文は、サービス体験の利用期間を、短期間、中期間、長

期間の三つに区分し、その区分ごとにサービスの実態、価値の変化の特徴を、タイムアクシスデザインを方法として類型分析した研究である。実用価値と精神価値の類型と変化について、マルチタイムスケールの視点を適用したことに研究の新しさがあり、フロンティア論文賞に値する。

<論文賞>

・『IMPRESSION EVALUATION OF DECORATIVE FILMS USING THE SPECTRAL RADIANCE RATIO (1) -Influence of Color on the Spectral Radiance Ratio』

『IMPRESSION EVALUATION OF DECORATIVE FILMS USING THE SPECTRAL RADIANCE RATIO (2) -Influence of “Wavelength-dependent Type” and “Angle-dependent Type” in the Spectral Radiance Ratio on Impression Evaluation』 Kei Matsuoka, Koichiro SATO, Fumio TERAUCHI

2報からなる本論文は、加飾フィルムの印象評価を対象とし、分光放射輝度率による波長ごとの分光反射率分布を用いることで、色彩や光沢を含むテクスチャの印象評価メカニズムを解明している。また、多角度の反射光を用いた新たな質感評価法を提案し、材料表面の観測角度による質感変化を定量的に表現可能としている。これらの知見は、材料表面の質感評価の方法論、および新たな加飾フィルムの創出の可能性を示しており、今後の質感研究の新たな発展が期待され、論文賞に値する。

・『日本のインダストリアルデザインの理論的特徴』 石川義宗
本論文は、日本のインダストリアルデザインの理論的特徴を明らかにすることを目的として、1970年前後のJIDAの機関誌を資料として、主に「道具」の概念について、「空間的、時間的変化」、「機能」、「デザイナーとユーザーの共同意識」、および「自然物と人工物を俯瞰する視野の獲得」といった4つの観点からの考察をしている。グッドデザインなどユニバーサルな視点がある一方で、1970年台の日本のインダストリアルデザイン界が、日本的な工業デザインの特質やあるべき日本的デザインを考え、発信した活動について、資料を整理しながら論考した論文であり、論文賞に値する。

<功労賞>

・五十嵐浩也 長年にわたる学会運営ならびに学術活動においての特段の貢献に対して
・森田昌嗣 同上
・岡田 明 同上
・久保雅義 同上

日本デザイン学会2024年度学会各賞選考委員会

委員長：松岡由幸

副委員長：渡邊 誠

幹 事：佐藤浩一郎

委 員：井口壽乃、工藤芳彰、久保光徳、小林昭世、杉下哲、村上 存、柳澤秀吉、山中敏正、横溝 賢

第71回春季研究発表大会報告

実行委員長 井上貢一

本報告では、今後の大会運営の参考にもなるよう、1) 大会基本情報、2) 大会準備の経緯、3) 大会情報の共有、4) 振り返り所感と、4つの枠組みでご報告させていただきます。

1. 大会基本情報

2024年度の春季研究発表大会は、そのテーマを「情報環境のデザイン」として、6月21日～23日、九州産業大学で開催されました。初日は理事会・総会と表彰者講演、兼松佳宏氏による基調講演、その後 OPEN SIG と、エクスカッションという日程。2日目と3日目は、午前と午後の口頭発表、ポスターセッション、そして6つのオーガナイズドセッションが行われました。

会計ベースの記録では、参加者総数 546名（正会員243名、学生会員160名、非会員143名）、口頭発表 201件、ポスター発表 81件、そして、懇親会に133名、エクスカッションに34名のご参加をいただきました。

2. 大会準備の経緯

経緯を遡ると、小林前会長より九産大開催のご相談をいただいたのが2023年の2月。2023年5月の理事会にて「次年度の春季大会は九産大」ということがオーソライズされました。2023年芝浦工業大学での大会には、九産大実行委員会予定メンバーがそれぞれの立場で視察を行い、夏ごろから学内の会場予約を含めた準備に着手、11月に学会本部の蘆澤雄亮先生、柿山浩一郎先生、永盛祐介先生と Confit の担当者を含めた準備会議を開催して、本格的な準備に入りました。12月の理事会で日程・概要・Confit の利用に関する承認を経て、2024年2月の理事会で参加費・発表費等の確認、3月1日から演題登録開始、5月1日から参加受付開始……という流れで準備が進行しました。その間、工藤芳彰先生と連携したオーガナイズドセッションの準備、協賛企業との出展調整等、多岐に渡る調整事項がありましたが、本部委員の先生方に様々な支援をいただいたことで、大きな問題が生じることなく開催まで辿り着きました。開催校実行委員会一同、この場をお借りして、改めて御

礼申し上げます。

3. 大会情報の共有

大会に関する案内、また演題登録・参加登録は、Confitが提供する大会サイト（CMS）において、前年のページ構成をテンプレートとし発信しました。なお、従来あった英語表記のページについては、ブラウザ上での自動翻訳が実用レベルになったことから、運営側での翻訳掲載作業を廃止することでコンセンサスが得られました。

大会サイトでは、予定される内容を未確定の段階から順次掲載するかたちで、なるべく早期に会員の皆様に情報が届くよう配慮するとともに、大会専用のGmailを準備して、各種の問い合わせに対応しました。ただ、実際に運用を開始すると、Confitアカウントの仕組みが十分に共有されていないこともあって、認証が通らずアクセスできないなどのトラブルが多発。また、年度をまたいで手続きが進行することから、所属（会員種別）の変更、連絡先の変更などで、一定数の混乱が発生しました。このようなサービスの利用は非常に便利である反面、例外的な事象への柔軟な対応が難しく、その点が今後の課題であると感じた次第です。

なお、大会サイトへの誘導は、準備期間の節目ごとに会員への一斉メールと学会の公式サイトを通して行いましたが、大会当日には、大会サイトがすべての情報を一元的に集約したサイトとして、役割を発揮してくれたようです。大会サイトは、以下のアドレスにアーカイブされています。

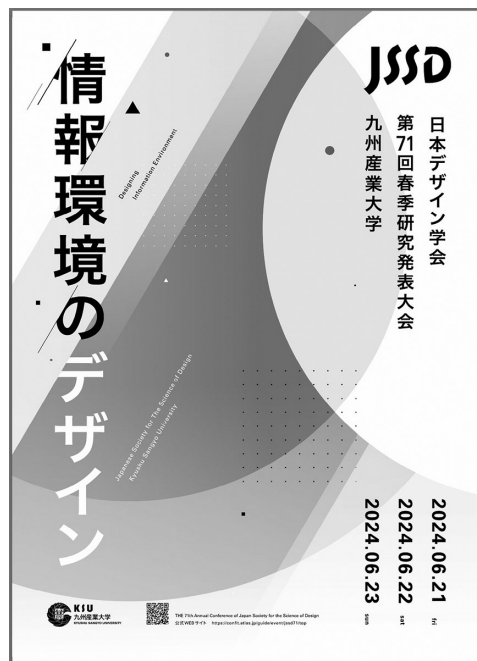
<https://confit.atlas.jp/guide/event/jssd71/top>

4. 振り返り所感

コロナ後の対面での春季大会としては、芝浦工業大学に続いて2回目。口頭発表については、前回の手法を継承して、遠隔でも視聴可能な「Zoom接続を介したプレゼンテーション」の形式を採用しました。コロナ禍で浸透した様々なオンラインツールは、今回のテーマであった「情報環境」を大きく変えた存在で、学会のあり方そのもののアップデートを促す契機ともなったと感じます。

情報環境が目まぐるしく変化する今日、物事の仕組みも環境の変化に応じてアップデートする必要がありますが、「どうアップデートするか」という以前に、まずは「アップデートし続けられる人間関係」があることが重要ではないかと思います。今年の大会では、全国から集まっていた方々と対面でお話する機会を得たことで、改めて対面コミュニケーションの楽しさと変革への活気を実感しました。人類が「文字」という遠隔・非同期ツールを使い始める以前、物事は「対話の場」で調整され、口伝で共有されていました。「栽培的な思考」

の成果としてのデジタル・オンライン化とともに、「野生の思考」が発動する祝祭的な場で会員の知見をプリコラーージュする。不謹慎な言い方かもしれませんが、学会はもともと興味・関心を同じくするオタクの集団なわけで、その大会というのは、オタクたちがリアルに集まる「オフ会」に例えられるでしょう。だとすれば、対面で集まる「ハレ」の大会に対して、「ケ」の日常をいかにオンラインで繋ぐか……そのプラットフォームが充実すると、学会がより楽しい存在になるのではないかと思います。



第72回春季研究発表大会予告

報告 横溝 賢

日本デザイン学会第72回春季研究発表大会は札幌市立大学・芸術の森キャンパスにて開催予定（2025年度6月末_開催日調整中）である。芸術の森キャンパスは、札幌市南区の芸術の森に位置し、建築家清家清による建築である。周囲の自然環境と調和するようにデザインされた空間を身体で感じながら集まった参加者と共にデザイン学の可能性を探究する予定である。

委員会報告

作品審査委員会

委員長 横溝 賢

2024年度から作品審査委員会は筆者を含めて新体制となる。昨年度の活動報告に記載されていたように近年、「デザイン学研究・作品集」の公募・審査スケジュールに遅延が生じている。年度内に作品集を出版できない状況を鑑みて、本年度は年度内に作品集を出版できるように、公募から審査までのスケジュールを適正に進めたい。そのためには、作品集の公募から査読・審査までの手続きを精査し、円滑な審査を執り行える体制を整える必要がある。

1995年に第1号が発刊された『デザイン学研究・作品集』はデザインに取り組む実務者・実践者の思考のプロセスを研究の対象とする（森典彦，1995）、デザイン学研究特有のジャーナルである。量産品のデザインが、社会や環境にあらたな問題を生み出しているように、デザインの思考と行為はより多元的にかつ包括的になってきている。複雑多様に変化する世界に適応していく現代デザイン知の様相を捉え、学び、読者自らの実務や生活に活かすことのできるジャーナルづくりに取り組んでいきたい。

学会誌編集・出版委員会

委員長 池田美奈子

当委員会では、今年度、会報の定期的な発行と周知に力を入れていきたいと考えている。学会会員を主な読者としたメディアとして、学会内の活動や動向をタイムリーに共有することで、コミュニケーションを促し、さらなる活動の活性化に貢献できるようにしたい。会報の迅速な発行と読んでいただけるあり方を実現するために、ホームページを活用した発信とデジタルメディアに適したコンテンツ、情報の構成やスタイルなどを検討し、できるだけ多くの方々の目に留まり活用していただ

るように工夫する。また、特集号については、発行が遅れている進行中の号、来年度発行予定の号も含め、スムーズな制作と発行を、委員会としてサポートしていく。2026年度以降の特集号のあり方については、新たな発行形態の可能性を探るとともに、それに伴うリニューアルも含めた検討を関係各所と協力しながら進めている。

企画委員会 支部企画

委員長 伏見清香

「教育成果集」募集のご案内

今年度も『教育成果集』を発行いたしますので、教育成果集に掲載する研究成果のご推薦をよろしく申し上げます。

<募集内容>

- ・教育機関（大学院、大学、短大、各種専門学校、高校等）で指導された教育成果（卒業・修了研究や制作、それらに類する成果）から1件を推薦
- ・推薦した教育成果の概要（400字以内）
- ・教育成果の全体像がわかる画像（300dpi）を3点

<スケジュール>

- ・登録締め切り（予定）2025年3月15日：ご自身の氏名・所属、学生の専攻・専門
- ・データ提出締め切り（予定）2025年4月15日：前記概要（400字以内）、画像3点

<教育成果集について>

- ・体裁：A4版冊子、フルカラー
 - ・発行部数：700部（予定）
 - ・教育成果1件の紹介サイズ：A4半ページ（図版と紹介文）
- *詳細は追ってご案内いたしますので、ご準備のほど、よろしくお願いたします。

支部活動報告・告知等

第1支部活動

支部長 福田大年

第1支部（東北・北海道地区）は、仙台、札幌、函館、秋田、山形、八戸、盛岡を舞台に、地元住民、学生、教員、他地域住民らがフラットに地域デザイン実践の知見を交流する「地域に開かれた学会」を目指して活動してきた。2023年度「第14回第1支部大会」は、10月20日（金）、21日（土）、22日（日）に札幌で開催し、COVID-19を経て変化した地域実践の「これまで」と「これから」を議論した。大会概要は以下の通りである。

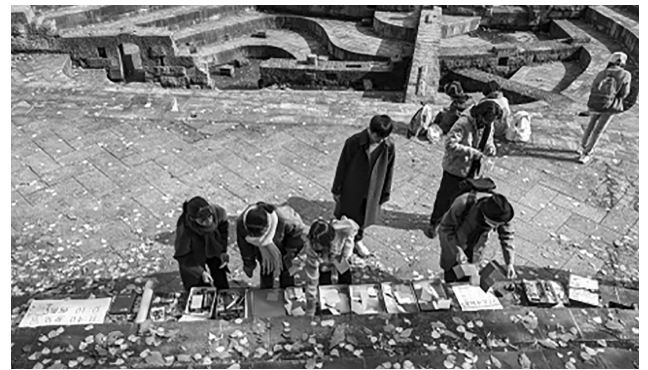
●第14回（2023年）第1支部大会の概要

- ・テーマ：都市と自然の端境（はざかい）で育むデザイン実践

- ・日時：2023年10月20日（金）15：00～17：00／21日（土）9：00～19：00／22日（日）10：00～15：00
- ・場所：札幌市立大学 芸術の森キャンパス／まこまないキャンパス／札幌市石山地区
- ・参加者：90人（地域住民3人、教員・研究者23人、院生8人、研究生1人、学部生55人）
- ・大会幹事校：札幌市立大学（福田大年、横溝賢）
- ・プログラム（括弧内は参加者数、発表件数）：仕込みワークショップ「航海図のタネを描く」（29人）／フィールドワーク「いしやまランプリング」（55人）／基調講演「地域コミュニティのつくり方」〔講師：札幌市立大学 片山めぐみ准教授〕（64人）／ワークショップ「地域デザイン実践の航海図づくり」（64人）／実践発表会（77人：ポスター発表21件、ライトニングトーク：18件、グラフィック・カタリスト：12人）／発表省察会「カタリストーク!!」（72人）

本大会のテーマ「都市と自然の端境で育まれるデザイン実践」は、第1支部が重視する「地域」を「都市と自然の端境」と捉え、大会参加者らの地域実践や第1支部のこれまでの活動成果を題材にして、地域で育まれるデザイン実践の意義と今後の展開を議論することを意図した。参加者は、東北・北海道の他に、関東、東海、九州など幅広い地域から集まった。

メインプログラムは、札幌市石山地区を探索し地域実践を探るフィールドワーク「いしやまランプリング」と、第1支部や参加者らの日頃の活動を持ち寄り今後の地域デザイン実践を考えるワークショップ「地域デザイン実践の航海図づくり」である。いずれの活動も参加者らが地域に触れて感じたこと考えたことを、イラスト、記号、言葉、造形などで表現（図化）し、その表現を見せ合いながら対話した。様々な方法で表現された地域実践の実感を鑑賞することは、他の参加者との対話を誘発し、地域を見つめる互いの視点が交流された。



いしやまランプリングの様子2



いしやまランプリングの様子3



地域デザイン実践の航海図づくりの様子1



いしやまランプリングの様子1



地域デザイン実践の航海図づくりの様子2



実践発表会の様子



カタリストトーク!!の様子

「実践発表会」では、ポスター発表とライトニングトークで参加者が研究発表をした。発表者は、各地域での実践研究活動を発表した。発表者と観客の対話を活性化させるため、第1支部大会では第12回（2022年）から発表会に「グラフィック・カタリスト」を導入している。グラフィック・カタリストとは、発表者と観客との対話を聞き眺めながら、カタリスト自身の中に生まれた想い・問いを発表内容と共に紙に図化し、発表者と観客との新しい省察を促す触媒（Catalyst：カタリスト）を担う人である。本大会のカタリストは、秋田公立美術大学、常葉大学、札幌市立大学の学生12人が担当した。発表会終了後、カタリスト、発表者、観客と対話しながら研究発表を深掘りする発表省察会「カタリストトーク!!」を実施した。発表者の意図とは異なる研究の注目点がカタリストによって炙り出され、研究を新たな視点で捉え直す議論が生まれた。

本大会は、地域に根ざした参加者の多様な活動を通して、地域デザイン実践の価値を改めて実感するものとなった。

2024年度の第15回第1支部大会は、公立はこだて未来大学が幹事校となり、9月28日（土）、29日（日）に函館で開催する。大会テーマを「ところがどっこい」とし、デザイン実践研究の魅力のひとつである「実際の現場でやってみて考えることで想定外の視座や原理にでくわすこと」を議論する場をデザインする。

第2支部活動

支部長 伏見清香

見学・講演会のご案内

学術研究の展示デザインによる可視化と伝達をテーマの軸として、見学・講演会を実施します。東京大学総合研究博物館において、現在企画展示中の「異形の美学」、常設展「UMUTオープンラボ」（“展示型収蔵”を基軸とした展示）を解説する他、標記テーマの過去に事例として「石の記憶—ヒロシマ・ナガサキ展」（研究の足跡を追体験した展示）等も事例に取り上げ、それらの企画デザインから製作を、大学博物館の視点での展示について、洪恒夫先生にご講演を頂きます。

- ・日 時：2024年12月19日（木）17：00～19：00
- ・会 場：東京大学総合研究博物館
（東京都文京区本郷7丁目3-1）
- ・テーマ：（仮）学術研究の展示デザインによる可視化と伝達
- ・講 師：洪 恒夫先生（東京大学総合研究博物館客員教授、日本デザイン団体協議会（DOO）委員長、ジャパン・デザイン・ミュージアム設立検討委員会（JDM）委員長）
- ・定員（経費）：20名程度（無料）
<https://www.um.u-tokyo.ac.jp>
- ・申込先：k.fushimi@ouj.ac.jp（伏見）まで

第3支部活動

支部長 黄ロビン

- 2024年3月23日（土）に金沢美術工芸大学で23年度第3支部研究発表会を開催した。30件（口頭10件、ポスター13件）の発表があり、参加者は39名。優秀発表賞の受賞は金丸侑平（金沢美大）、井倉芳弥（名市大）、饗庭大喜（福井工大）、光野のな・福島涼・三沢恵（金城学院大学）の4点。能登地震直後のため開催が心配されたが、主催校の全面的な協力により無事に開催できた。
- e-ISSN（オンライン）の取得と共に、研究発表会の梗概集は報告集と合本して、支部HPの概要集に格納。
- 会員の研究と制作の発表の場として、24年度も報告集を募集する。詳細は第3支部HPをご参照いただきたい。
- 学生の優秀な研究・制作を奨励するため、今年度も募集する予定。
- 24年度研究発表会は2025年2月22日に金城学院大学で開催。発表申込の締切は2025年1月31日、原稿提出の締切は2月10日。詳細は第3支部HPをご参照ください。なお、今年度も発表学生の中から優秀発表賞を選出予定。

第4支部活動

支部長 前川正実

第4支部では、支部研究発表大会を2月末に京都か大阪で開催することを予定している。詳細な内容は決定次第日本デザイン学会ウェブサイトにてお伝えする。このほか、第4支部学生奨励賞新設のための検討を行っているところであり、ご案内する内容が決まり次第、第4支部会員に向けてお伝えする。

第5支部活動

支部長 田村良一

2024（令和6）年度は、10月26日（土）、九州大学大橋キャンパスを会場として、第5支部理事及び幹事を実行委員とする「2024年度第5支部発表会」を開催する予定である。本発表会は、対面での参加が難しい他支部からの参加者向けにオンライン方式を併用しつつ、2018年度以来、実に6年ぶりとなる対面形式での実施を計画している。

本発表会では、通常の研究発表大会における口頭発表・ポスター発表に準じる「研究発表」と、研究や作品が未完であっても発表練習や聴講者との意見交換などを目的とする「ライトニングトーク」の2発表区分を設ける。

第5支部発表会では、支部会員のみならず、他支部の方や、今後、本学会に入会の可能性のある方の参加・発表を歓迎している。またライトニングトーク枠においては、会員が指導する学部学生や、高大連携授業に携わる高校生にも門戸を広げている。

実行委員一同、多くの皆様のご参加およびご発表を心よりお待ちしております。

研究部会活動報告・告知等

タイポグラフィ部会

主査 伊原久裕

タイポグラフィ部会は、学会大会に合わせて6月23日に部会を開催し、2024年度はタイポグラフィ教育をテーマに活動を行うこととした。

2010年に部会で大学におけるタイポグラフィ教育の実態調査を実施しており、今回もこの内容に準じてタイポグラフィ教育の現在を把握するアンケート調査を、高城光部会員を中心として実施している。9月末の段階で、16件の回答が得られ、現在、その内容を分析しており、その結果をもとに、リモートによる研究会の開催を計画している。

環境デザイン部会

主査 森山貴之

環境デザイン部会が発行するEd Placeは、1985年の創刊からまもなく100号を迎える。その100号までの歩みには、40年間の環境デザインの展開とそれに対する部会の知見が凝縮されている。

そこで2024年度は年間活動テーマとして「つなぐためのアーカイブ：ED Place40年のあゆみにみる環境デザインの総括と未来」と題し、これまでのEd Placeを読み解きながら40年間の環境デザインを総括するとともに、そこから導かれる将来についての提言を行う。

具体的には2025年1月に発行予定のEd Place第100号にあわせてEd Place WEBアーカイブを公開する。このアーカイブでは全バックナンバーをPDFで閲覧できるほか、発行年、記事タイトル、著者、キーワードによる全文検索が可能である。

並行してWebアーカイブの周知を目的とした展覧会に向けて準備を進めてゆく（2025年11月開催予定）。展示では、Ed Placeを通してみた1985年以降の国内の環境デザインの年表化、主要トピックや作品事例についての解説、掲載記事のテキストマイニングによる各時代の傾向分析、部会関係者が活動を振り返る映像ドキュメントの制作などを行う。

これらの活動は学術的貢献が期待されるため、学会大会でのアーカイブを題材にしたセッションなどについても都度検討してゆく予定である。

家具・木工部会

主査 石川義宗

1. 第71回春季大会「家具・木工」のセッションに部会員^(*)が下記3件の口頭発表を行った。

永山雅大*、内藤廉二、長嶋宏之、小林正信

「木材CNC加工への3Dプリンターの応用」

中嶋観司、阿部真理*、白石照美*、森岡大輔

「弾性スギ圧縮木材を用いた集成材による転倒リスク軽減家具の開発」

谷本尚子*、益岡 了

「宮崎椅子製作所とその背景」

2. 第71回春季大会にて部会イベントを下記のように開催した。

6月22日（土）15：00～16：00

講演・対談「大川における木材加工の歴史」

植木林業株式会社 代表取締役 植木正明

株式会社碧蘭 代表取締役 青木幹太（九州産業大学名誉教授）

訃報

- ・名誉会員の堀田明裕先生が4月29日に82歳でご逝去されました。ここに生前のご厚誼を深謝し謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
- ・名誉会員の向井周太郎先生が10月24日にご逝去されました。ここに生前のご厚誼を深謝し謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

献本御礼

◆献本

「1950～60年代にデザインを学んだ私たち—千葉大学デザイン教育編」 編者：澁谷邦男、発行：北のデザイン研究所発行
「デザインの創発」 著・監修：原田 昭、発行：原田 昭+叙勲記念編集出版委員会事務局

◆機関誌他

「Taiwan Design Research Institute Annual Report」 Ed: Chi-Yi Chang, Published by Taiwan Design Research Institute, 2023年4月

「フェーズフリー アワード2023報告書」 発行：一般社団法人フェーズフリー協会、2023年12月

「横幹 創立20周年特集号 Vol.17 No.3」 発行：特定非営利法人横断基幹科学技術研究団体連合、2024年3月

「第17回未来を強くする子育てプロジェクト 事業報告2023」 編集：「未来を強くする子育てプロジェクト」事務局、発行：住友生命保険相互会社、2024年3月

「WDO世界デザイン会議東京2023報告書」 編集：株式会社アクシス、発行：公益財団法人日本デザイン振興会、2024年3月

「TAMABI NEWS Vol.98」 発行：多摩美術大学広報部、2024年7月

「デザイン理論 84号」 意匠学会編、発行：意匠学会事務局、2024年8月

「GK Report No.45」 発行：GK デザイングループ、2024年9月

◆催事情報

「without records 大友良英+青山泰知+伊藤隆之」 2024/7/20～12/15 山口情報芸術センター [YCAM] サテライトA

「ダンスフロアー・アズ・スタディールーム ウェンデルン・ファン・オルデンボルフ」 2024/11/30～2025/3/15 山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

「第14回世界ポスタートリエンナーレトヤマ2024」 2024/10/12～

12/15 富山県美術館

「ハニワと土偶の近代」 2024/10/1～12/22 東京国立近代美術館

「心象工芸展」 2024/9/6～12/1 国立工芸館

◆募集

・第24回グリーン・サステイナブル ケミストリー賞/応募締切：2024/11/15 主催：公益社団法人 新化学技術推進協会

会員の移動

◆第3回運営委員会 2024.02.10

新入会

正会員7名

石黒 大洋 高広 伯彦 豊田 仁美 鈴木 利彦
鈴木 文晃 高木 大輔 村井 睦

学生会員17名（内、海外会員5名）

石森 聖麻 今井 悠理 遠藤 柊奈 金子 ゆり
岸川 楽 九富沙耶乃 鈴木 愛佳 鈴木 彩音
鈴木 七世 平 翔 山田 杏奈 渡辺安梨沙
Pan Aobo 李 天雨 張 武琛 戴 聞汐
LU HUANG-CHEN

退会

正会員11名

浅賀 武 岩瀬 直樹 大森 正夫 角谷 修
木内 正人 相良 二郎 辻川ひとみ 中井 和子
中口 哲治 宮川 清 吉原 直彦

学生会員2名

多田 亮平 針ヶ谷優里

◆第1回運営委員会 2024.04.13

新入会

正会員32名（内、海外会員3名）

明石 和綺 阿部 浩之 阿萬 芳和 井伊あかり
石郷 祐介 大喜多一範 尾関 智恵 川上湖瑚露
川北 輝 工藤孔梨子 黒沼 麻帆 佐藤 安
嶋 彩花 島影 圭佑 田口真太郎 田嶋 美雪
鶴巻 史子 西 晃平 西尾 和秀 西川 拓輝
橋本 紗良 平井 優子 本田 宗久 松岡 美佑
見明 暢 水野 悠子 山崎 宏子 山添 崇

山本あつし 吳 志富 楊 學太 金 珉珠

学生会員83名 (内、海外会員15名)

青木 万奈 池田 完彩 池原 優斗 石橋孝太郎
 伊田 博光 伊地知 優 伊藤 航介 稲垣 友亮
 井上 裕介 井部 和樹 岩井 心哉 上田 粹
 植松 涼介 大岩 直央 大国 絢美 大西 皓丈
 大場 心晴 勝藤 智哉 金子 泰千 河崎 太祐
 倉林 一範 栗山隆之介 来田 玲子 後藤華緒里
 佐倉 寧音 佐々木響希 佐々木亮太 佐藤 涼香
 佐藤 大輔 佐藤 天 佐藤 美遊 澤田 一葉
 下嶋 真珠 菅原 真唯 高島 健輔 武井 優空
 館野 友那 田仲 麻友 丹後 飛馬 辻川 和花
 土屋 弘樹 出本悠太郎 徳田 晴己 直井 裕希
 長岡 南風 中田 千聖 中前 涼太 長山 拓人
 浪川 早咲 拝野 加奈 羽賀 優希 服部 廉
 濱 太郎 早川 由莉 東 彩夏
 フィッシュバーン 暁子
 藤枝 泰生 堀江 宙生 前田悠之介 増村 光春
 末永かりん 三代 晃司 三井 琳世 森戸 真秀
 諸橋 利奈 吉原寿仁也 渡邊 立樹 渡部 結子
 吳 松幸 黄 秋榕 張 沢 ウ ヨウ
 楊 碩 楊 逸秋 LYU YUTING
 陳 正捷 XUE BINGQING
 RALAMBOZATOVO NARIONJA VOLOLONIRINA

張 瑞鵬 羅 雷 徐 亘辰 徐 ピン
 劉 奕晨

退会

正会員27名 (内、海外会員1名)

赤坂 拓郎 浅野 花歩 荒木 博申 伊藤 明彦
 稲塚 展子 大西 望生 岡村 美好 小川 俊二
 金沢 将 川口 吾妻 櫻井 弘道 佐々木一成
 佐藤 康三 高橋 基就 田桐 邦生 玉田 俊郎
 土田 知也 土居 詩歩 戸谷 一雄 西部愛裕美
 細川 喜孝 宮前 貴行 村石伊知郎 藪谷 祐介
 山本 和史 吉村 祐樹 田 娜

学生会員5名

鎌田 尚希 金城 秀都 田中 慎人 林 淳平
 藤方 溪心

◆第1回理事会 2024.05.11

新入会

正会員6名

足利えりか 遠藤 和紀 北嶋 将人 成田智恵子
 二宮 綾音 松江 幸子

学生会員15名 (内、海外会員9名)

井谷 直渡 佐藤優記代 常盤 優菜 中嶋 友哉
 星 杏優菜 本家 侑弥 廖 于萱 吳 颯萱
 黄 奕瑄 王 俊翔 林 柏澄 謝 承志
 林 均翰 蘇 柏安 タルベルデイエバ タマン

休会

海外会員1名

徐 湘綾

退会

正会員6名

井上 全人 大石 容一 大村 瑛太 小野千代子
 鎌田 奈緒 富田 太基

学生会員4名

朝山 絵美 伊藤 健 竹内 智一 山本 尚毅

◆第2回理事会 2024.06.21

新入会

正会員14名 (内、海外会員1名)

青沼 優介 石川 亮 井上 諭 内山 竜多
 川口亜佑子 栗原 涉 関家 直樹 滝口 隆久
 早房 敬祐 榎田 聡志 水野 佑紀 宮木 健二
 柳瀬 浩之 劉 芳晴

学生会員20名 (内、海外会員6名)

相原 結希 大島龍之介 我喜屋藍香 加藤ふらの
 金子 舞 佐藤 暁子 佐藤 拓真 竹内 琢真
 二宮龍之輔 帆足 夏央 山本 若菜 蛭山 翔真
 渡邊 萌 孫 暁儀 Tsukeyanagi Ririka
 郭 晨陽 楊 脩遠 陸 科宇 呂 恬娣
 Tjandra Henny

賛助会員2件

株式会社トゥールズインターナショナル マーケティング部
 株式会社NTTデータMSE 第二デジタルビジネス事業本部
 +Nextデザイン室

退会

正会員 2名

上野 直哉 清水 千夏 野田 久智 松本 幹大

◆第2回運営委員会 2024.09.07

新入会

正会員12名（内、海外会員1名）

石川 初 風早 由佳 川村 朱乃 小柴 咲耶

小林 桂子 塩川 亜湖 清水 正路 長田 和美

羽山 康之 布山タルト 丸山 晴之 陳 兵誠

学生会員12名（内、海外会員7名）

上平 真央 蔵前 萌那 添田 翔馬 西脇 聖

古庄 美樹 王 偉建 張 瑞麟 烏 蘭吉亜

呂 亜輝 王 智恒 張 雲霆 温 建思奇

CHANG Yu Min

休会 正会員 1名

藤田 茂